

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都台東区上野桜木2-16-10
園名	台東区立谷中保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の違いを感じる

<テーマの設定理由>

楽器を鳴らしたり、講師の鳴らす音を聴き、自分なりに気づいたり感じたりしたことを身体で表現をしたり、友達や保育士と共有しながら、楽しめるようにしたい。また様々な楽器の音の違いを感じることができるようになりたい。

自分の表現したことを皆に認めてもらえることや、自分の表現と違うものがありそれを認めることで、さらに表現することを楽しめるようにしたい。

2. 活動スケジュール

【問いを考える】

楽器に触れ使い方(扱い方)により音の違いを見つけることを問いとして設定する。

【環境をデザインする】

楽器、音響等を用意し、子供たちが自由に触れられるようにする。

【探究活動を実践し、記録する】

子供たちが感じたことを話したり、こうしたらどうかなと提案できたりするように声をかけていく。探求する姿は写真で記録する。

【振り返る・共有する】

活動を実施した後の会議の場で、活動内容の振り返りを行う。振り返りの結果は、園内掲示板で保護者にも共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【活動時】

・楽器 ・CD デッキ ・ラバーマーク ・デジカメ

【環境設定】

・遊戯室にピアノ、楽器、リトミックスカーフ、ラバーリング等を準備する。
ピアノは講師から園児の姿が見やすいよう場所を移動させる

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

クラスごと活動の内容を写真や動画に撮る。活動終了後各クラスで振り返りをおこなう。

活動後の感想や発見したことを伝えあったり、子供たちの意見を取り入れ次の保育活かしていく。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

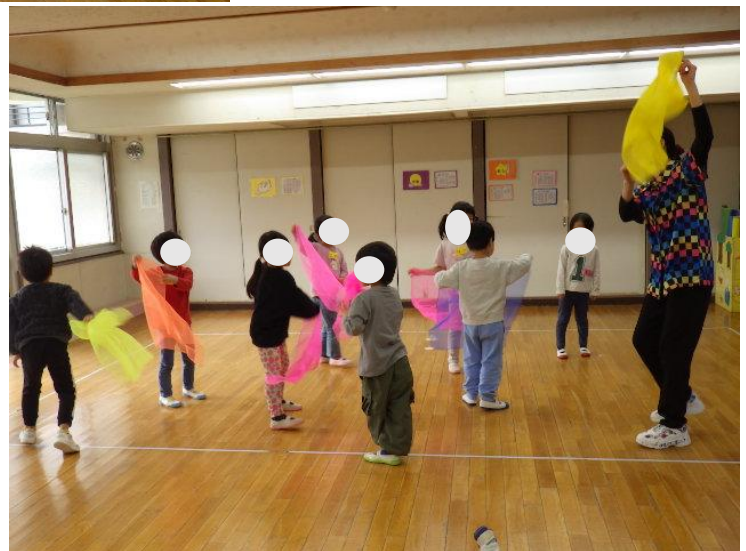
・カスタネットの音を楽しむ中で「手をパーにして叩くときと指ではさんでパクパクするときでおとがちょっと違う」という発見があり、「やってみる」「ほんとちょっとちがくきこえる」

・「やさしくたたくといい音になる」「めちゃくちゃだと耳いたくなる」などの声があがる。

・音楽や楽器に対する興味関心が深まった様子が見られた。

・音に合わせて体を動かすことでリズム感が自然につき、走る・歩く・跳ぶという動きがスムーズになった。

・集団保育を得意としない園児も音楽を通しての活動には意欲をみせ一緒に楽しむ姿が多く見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・自由に音を鳴らすことが音楽につながり、心地良い音色、耳障りな音色の違いに子供たちが気付いた様子やリズムにより体の動きがスムーズになること、集団での活動を得意としない子供たちの活動への意欲的な参加を見て音や音楽の持つ力に改めて気付いた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都台東区上野桜木2-16-10
園名	台東区立谷中保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

日本の踊りを通し、リズム感や身体表現を身につける

<テーマの設定理由>

各地域で親しまれてきた伝統文化である日本の踊りを計画的、継続的に表現することを楽しみながら、民舞で使用する楽器に触れ民舞への興味や関心を深めていく。音楽に合わせて、多様なリズムや身体技法を学び習得し、踊りを通して日本文化に触れ、尊重する気持ちを育てる。

2. 活動スケジュール

【問いを考える】

「こうやって体を動かすとかっこいいかな?」「〇〇ちゃんは、こうやってて素敵だよ」等、発せられた言葉から問いとして設定する。

【環境をデザインする】

お互いの踊りを見せ合う機会を作る。気持ちが高まるように衣装等を用意する。

【探究活動を実践し、記録する】

子供たちが感じたことを話したり、こうしたらどうかなと提案できたりするように声をかけていく。探求する姿は写真で記録する。

【振り返る・共有する】

活動を実施した後の会議の場で、活動内容の振り返りを行う。振り返りの結果は、園内掲示板で保護者にも共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【活動時】

・楽器(鳴子、パーランクー) ・CD デッキ ・ラバーマーク ・デジカメ

【環境設定】

・遊戯室にアンプ、鳴子、パーランクー、ラバーマットを準備する。

ラバーマットを等間隔に置き、子供同士の手や楽器がぶつからないように設定する。

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

クラスごとに民舞を踊る様子を写真に撮る。できるだけその日のうちに振返りの時間を設定した。

互いに見せ合う時間をとり感想を聞いたり、大きいクラスから小さいクラスへとアドバイスをしたりする。

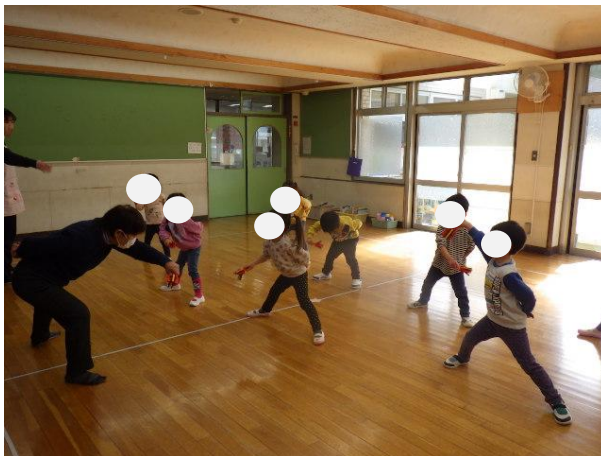
音楽に合わせて楽器を鳴らす面白さやリズムに乗って踊る楽しさが伝わるように保育者も一緒に踊ったり、声掛けをしていく

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・振り返り時には保育者から「どこが格好よかった?」「〇〇の振りのところはどうするといいかな?」等、今後につながる気づきを得られるような問いかけをしていた。

・5歳児は4歳児へ、4歳児は3歳児へと、前年に自分達が習ったことを思い出し、「しっかり腰を落として構えるともっと格好よくなるんだよ」「波の振りはぷかぷか動かすんじゃなくて、押して～引いて～を力強くやるといいんだよ」等、かなり具体的なアドバイスが出ていた。

・パーランクーのたたき方、鳴子の鳴らし方について「ここは強くたたくとカッコいいよね」「みんなで合わせると音が大きくなるね」「なるこはたくさんふるとちょっとうるさいね」等の意見がでる。それを受け保育者が「どうしたらいい音になるかな」と返し、子供たちに気づきを得られるようにしていく。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・お互いに見せ合うことでソーラン節、沖縄の踊りを経験している年長児からの具体的な感想やアドバイスを聞きより意識して自分の踊りや楽器の扱い方や身体の動かし方を意識する姿があり、子供同士の良い刺激の受け合いが見られた。
- ・楽器の特徴や鳴らし方に興味を強く持ち、「こうしたらどうなる」という探求心が生まれことを感じた。